

# マンツーマンコミッショナー設置及び試合における運用マニュアル

茨城県中学校体育連盟バスケットボール専門部

茨城県中学生バスケットボール連盟

## 1. 目的

コミッショナーの第一目的は、違反行為を取り締まり、罰則を適用することではなく、マンツーマンディフェンスに対する理解を推進し、以下に示す選手への効果がゲームで進められるよう、正しいマンツーマンディフェンスを普及していくことである。

### <選手への効果>

- 1対1でバスケットボールを楽しむ
- 個人のスキルアップを図る
- 状況判断力、理解力を高める
- 想像力を養う

## 2. 運用規定

- (1) コミッショナーは試合において、JBA「マンツーマンディフェンスの基準規則」・「マンツーマンディフェンスの基準規則・補足解説（2016年7月11日）」に則り、正しいマンツーマンディフェンスが行われているか、ゾーンディフェンス禁止に関する違反がないかを観察し判定する。
- (2) コミッショナー席は、試合が見渡せる場所に設置する。原則としてコーチとコミュニケーションの取りやすいTO席付近とするが、大会や会場の状況等によっては、協議しTO席向かい側にしても構わない。
- (3) コミッショナーの配置人数は2名とする。（大会の人員状況によって3名としてもよい）黄色の旗、赤色の旗それぞれ2本ずつ、マンツーマンコミッショナーチェック表、筆記用具を人数分用意する。
- (4) コミッショナーはコミュニケーションをとりながら観察し、「旗を上げる」、「チェック表に記入する」など役割を分担する。
- (5) コミッショナーは、違反行為が生じた際に「黄色（注意）」の旗を振り、そのチームのベンチを指し、コーチ・選手の対応を確認する。この時、ボールの保持が代わっても黄色い旗は上げ続ける。黄色の旗が上がっているにも関わらず改善されない場合は、「赤色（警告）」の旗を上げ、ゲームクロックが止まった際に審判に伝達し、主審は両チームのコーチをTO席前に招き、コミッショナーが両チームのコーチに対して違反行為についての説明を行う。コーチから選手に説明する時間が必要な場合、TO席前にコート上の5人の選手を集め、コミッショナー同席のもと、速やかに説明を行い、試合を再開する。
- (6) 2回目以降のマンツーマンディフェンスの基準規則違反「赤色（警告）」に対しては、コミッショナーからコーチへの説明の後に、対象チームのベンチ（コーチ）にはテクニカル・ファウルが適用される。テクニカルファウルに対する処置については日本バスケットボール協会の競技規則に則るものとする。
- (7) コミッショナーは、試合中、クォーター間、ハーフタイム等々必要に応じてコーチ・審判とコミュニケーションを図り、円滑に試合が進行できるよう努める。（旗が上がっていない場合も含む）
- (8) 試合終了後、コミッショナーは速やかに「マンツーマンコミッショナーチェック表」を大会コミッショナー担当者に提出し報告する。

## <その他の留意点>

- ※ 違反行為の判定にあたっての留意点として、体力・技術不足により故意ではない違反行為が起こる可能性もあるため、違反行為の判定にあたっては慎重に行うこと。

<次の場合は、違反処置とならない場合が考えられるので特に注意する>

- ディフェンス側の技術不足やオフェンス側の戦術により、マッチアップが遅れる。
- 体力・技術不足などからオフェンス側のトランジションについていけず、速攻などオフェンス側が数的有利な状況となっている。(ディフェンスが戻るまでの数秒間)
- 1度のマッチアップ違反が見られたが、その後改善された場合。
- マッチアップ違反が見られたが、1. 目的に示した「選手への効果」が十分に見られ、影響がない場合は、ゲームの円滑な進行のために違反処置として取り上げるかどうかを十分に相談する。
- ファウルアウト等により5対4や5対3になったときは、マンツーマンの基準規則の適用は困難になる。

- ※ 審判が「赤旗（警告）の旗に気付かない場合は、ゲームクロックが止まった際にブザーを鳴らすことも可とする。
- ※ 1回の注意が一方のチームに上がったあと、もう一方のチームにも違反が見られた場合、両方に黄色い旗をあげる。
- ※ コーチがどのような違反であるのかわからない状況や違反内容を誤っている状況（ルールの理解不足、同時に複数の違反が見られた場合など）の場合、コーチから確認の要請があれば赤色の旗でなくてもタイムアウトや、ピリオド間に短時間で説明をすることができるものとする。状況によりコーチからの要請が無くとも説明をしてもよいものとする。それでも違反が継続された場合は赤色の旗を上げる。
- ※ 黄色い旗（注意）をあげ、コーチの指示により違反が見られなくなった場合は、旗を降ろす。時間が経過し同じ内容の違反が再度見られた場合は再び黄色い旗を上げる。違う内容の違反の場合も同様に黄色の旗を上げる。
- ※ 悪質（故意的）な違反行為や「黄色（注意）」の旗を振らずに、すぐに「赤色（警告）」の旗を上げることも可である。また、ゲーム終了間際（第4ピリオド、延長時限）残り2分を切ったからのゾーンプレスなど悪質な違反行為については、即座に「赤色（警告）」の旗を上げ、1回目の警告であってもテクニカルファウルの対象とする。さらに、悪質違反行為が繰り返されたり、試合終了間際などに悪質違反行為が認められたりし、勝敗が明らかに左右された場合は、大会責任者と相談の上、違反を犯したチームの次試合の出場停止を検討することができる。
- ※ コーチはゲーム中に、コミッショナーに対し相手チームの違反の指摘等を行ってはならない。また、「コミッショナーの指示に従わない態度」、「コミッショナーへの苦情や必要以上の指摘」はテクニカルファウルの対象となる。

## 付 則

- この「マンツーマンコミッショナー設置及び試合における運用マニュアル」は、平成28年6月24日より施行する。
- 平成28年10月4日 一部改訂